



岩田 健太郎 先生

略歴

1997年島根医科大学（現・島根大学）卒業。沖縄県立中部病院研修医，セントルークス・ルーズベルト病院（ニューヨーク市）内科研修医を経て，同市ベスイスラエル・メディカルセンター感染症フェローとなる。2003年に中国へ渡り北京インターナショナルSOSクリニックで勤務。2004年に帰国，亀田総合病院（千葉県）で感染症科部長，同総合診療・感染症科部長歴任。2008年より現職。

米国内科専門医，感染症専門医，感染管理認定CIC，渡航医学認定CTHなどに加え，漢方内科専門医，ワインエキスパート・エクセレンスやファイナンシャル・プランナーなどの資格ももつ。

主な著書に，『サルバルサン戦記』，『極論で語る感染症』『抗菌薬の考え方，使い方 Ver.4 魔弾よ，ふたたび…』，『高齢者のための感染症診療』，近刊に『新・養生訓健康本のテイスティング』，翻訳本で『シュロスバーグの臨床感染症学（監訳）』など，著書多数。

感染症の考え方

神戸大学大学院医学研究科 感染治療学

岩田 健太郎

残念なことに日本では抗菌薬の選択が誤った根拠で行われ，その結果抗菌薬の誤用が非常に多い。それは患者に起きる感染症という現象を無視し，菌という物質を殺すことのみ（しかもインビトロで）目指してしまったことからくる誤謬だ。

口腔内は無菌状態ではいられない。よって，菌を殺して排除することは最初から目標にはならない。では，何を目標にすればよいのか。感染症という現象と微生物という物質をつなぐ鍵と，考え方の要諦を教育講演で論じたいと思う。